

2024～2025 年度クラブ運営方針  
「生み出そう感謝される喜びを」

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

# 東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB



2024 年 (令和 6 年) 11 月 13 日 (水)  
第 1650 回例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

## 伊藤千恵ガバナー公式訪問 ～東京昭島 RC との合同例会～

### ●本日の司会 (鈴木 栄 SAA)



### ●開会点鐘



昭島 RC 野村 芳樹会長・田畑 勝久会長

### ●国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱



ソングリーダー  
柴田 智幸副幹事

### ●本日のお客様

国際ロータリー第 2750 地区	ガバナー	伊藤千恵 様
同地区	多摩中グループガバナー補佐	竹内政司 様
同地区	地区幹事	佐藤 剛 様
同地区	多摩中グループ グループ幹事	山下耕平 様



### ●ホストクラブ会長挨拶 (田畑 勝久会長)



改めましてこんばんは。国際ロータリークラブ第 2750 地区ガバナー伊藤千恵様、多摩中グループガバナー補佐竹内政司様、地区幹事佐藤剛様、多摩中グループグループ幹事山下耕平様、今日は、東京昭島ロータリークラブならびに東京昭島中央ロータリークラブにご訪問いただき、誠にありがとうございます。お忙しい中、私達クラブの活動を見守り、共に学び、励ましていただきましたことに深く感謝申し上げます。

先ほど開催されましたガバナー懇談会も、無事に終了したことをご報告いたします。懇談会では、伊藤千恵ガバナーからのご指導や温かいお言葉を賜り、一同大変貴重な励みとなりました。特に、ロータリー活動における具体的な行動計画や奉仕の精神のあり方、未来に向けたビジョンについてのお話には心を動かされ、今後の活動に対する大きな指針をいただけたと感じております。これらの教えを胸に刻み、さらに精進し、地域社会への貢献に努めてまいります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

伊藤ガバナーのますますのご活躍とご健康を祈念し、今後の一層のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

### ●新会員入会式



中藪 裕会員  
相羽 吉春会員  
高田 啓太会員  
竹内 克雅会員



## ニコニコ BOX

(石岡 純親睦委員長)



◎田畑会長  
伊藤ガバナー、竹内ガバナー補佐、佐藤地区幹事、山下グループ幹事、ご来訪ありがとうございました。

◎椎名会員  
伊藤ガバナー、ご来訪ありがとうございます。ご指導の程、どうぞよろしくお願い致します。

◎下田会員 伊藤ガバナーの公式訪問を祝して！

◎内藤会員 ご苦労様です。

◎西野会員 ガバナー公式訪問に感謝して！！

◎岡野幹事  
伊藤ガバナー、竹内ガバナー補佐、佐藤地区幹事、山下グループ幹事、本日はご来訪ありがとうございました。

◎相羽会員  
この度は入会させていただきありがとうございました。

◎石岡純会員 伊藤ガバナーの公式訪問を祝して

◎磯野会員  
伊藤千恵ガバナー公式訪問、昭島ロータリークラブとの合同例会を祝して

◎岩本会員  
伊藤ガバナー様、竹内ガバナー補佐様、佐藤地区幹事様山下グループ幹事様、本日はご来訪ありがとうございます。

◎重森会員  
ガバナー公式訪問、合同例会の開催を祝して

◎鈴木栄会員 ガバナー公式訪問を祝して

◎寺木会員 合同例会を祝して。

◎中村会員  
昭島中央 RC ・ 昭島 RC 合同例会を祝して。  
田畑会長、岡野幹事大変おつかれさまでした。

◎曳地会員 ガバナー来訪を祝って

◎本田会員 ガバナーの来訪を祝し

・今藤会員 伊藤ガバナー、ようこそ。

・岡野景子会員  
伊藤ガバナーご来訪ありがとうございました。

・桜井会員 合同例会を祝して。

・竹内会員 合同例会を祝して。

・中園会員 ガバナー公式訪問を祝して

・西会員  
伊藤千恵ガバナー、訪問ありがとうございました。

## 卓話「ロータリーのマジックを生み出そう」 RI 第 2750 地区 ガバナー伊藤 千恵様

### 講師紹介 (田畑 勝久会長)

それでは、講師のご紹介をいたします。国際ロータリー第 2750 地区ガバナー、伊藤千恵様（東京恵比寿ロータリークラブ所属）でございます。勤務先は株式会社産業新潮社、代表取締役社長を務めていらっしゃいます。ロータリー歴は、1995 年 11 月 8 日に東京恵比寿ロータリークラブにチャーターメンバーとしてご入会されました。2011-2012 年度には東京恵比寿ロータリークラブ会長を、2020-2021 年度にはガバナー補佐（山手東グループ）を歴任されています。どうぞよろしくお願いいたします。

### 卓話



皆様こんばんは。東京昭島ロータリークラブの皆様、そして東京昭島中央ロータリークラブの皆様、日頃よりロータリー活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。また、本日はそれぞれのクラブで新たに 4 名ずつの仲間をお迎えされたとのことで、大変素晴らしいことと思います。心よりお祝い申し上げます。会員の皆様、これからもぜひロータリー活動を楽しんでいただければ幸いです。

本日は初めてお目にかかる方が多いかと思しますので、まずは自己紹介をさせていただきます。パワーポイントを用意しましたので、ご覧ください。私は、大阪府吹田市千里山で、姉と兄がいる 3 人兄弟の末っ子として生まれ育ちました。10 歳のときに馬と出会い、その美しい瞳に魅了されて乗馬を始めました。高校は、かつて旧制中学・男子校だった「質実剛健」を旨とする学校に進みました。大学は古都奈良にある、かつての高等師範学校で教育学を学びました。歴史ある学び舎での古風な環境が印象深いものでした。右側の写真がその大学です。鹿が写っていますね。奈良では鹿は神様の使いとして大切にされており、毎日のように大学に現れていました。学生時代は、鹿と共に学び、馬に乗る日々を送ったため、「馬鹿」の時代ともいえる青春でした。受験中も馬術を続けており、目標であった全日本優勝を果たしました。その後、国際大会での入賞を機に引退しました。写真は試合のワンシーンです。馬が右側に飛んでいる瞬間で、実はカメラに驚いて動いたということを知りました。動物の感性を改めて感じた経験です。

仕事についてですが、私は出版業に携わっております。主に月刊誌を発行し、人間学シリーズなどの単行本も出

版しております。創業者である父は、戦後にシベリア抑留を経験し、復興の一助になりたいという想いを抱いておりました。父は阪急グループの創始者である小林一三氏との出会いをきっかけに、リーダーにスポットを当てた雑誌を創刊しました。72年前の創刊以来、編集長として多くのリーダーを取材し、その思いを伝え続けています。私自身は、身内を入れないという父の方針に反して、熱意を持って掛け合い押し掛け社員として入社しました。それから32年、後を継ぎ、現在に至ります。父はロータリーの会員でもありましたが、私は東京で仕事をしていた際に、恵比寿ロータリークラブ創立会長から声をかけられ、入会しました。以上が私の紹介となります。

右側の写真は、東京恵比寿ロータリークラブの創立総会時のものです。チャーターメンバー48名のうち、女性が17名含まれており、当時としては珍しく女性にも門戸を開いたクラブでした。設立会長は「これからは女性が活躍する時代だ」と考え、新しいクラブの形を目指し、恵比寿ガーデンプレイスの完成と同時に恵比寿ロータリークラブを設立しました。また、皆さまご存じの司陽子さんや松島知子さんもチャーターメンバーであり、現在も活躍されています。私自身は1998年、入会3年目で2750地区に出向し、地区ガバナー補佐の委員を務めさせていただきました。当時、ロータリーは「男のロマン」とも言われていましたが、女性として責任ある役割を担うことができたのは貴重な経験でした。その後、東日本大震災の年にクラブ会長を、またコロナ禍の混乱した年にはガバナー補佐を務めました。いずれも困難な時期でありましたが、今振り返ると非常に良い勉強になったと感じております。ロータリーは「人生の道場」「大人の学校」とも言われますが、まさにその通りで、多くの学びと気づきを得られる場です。私自身、小さな出版社の社長として「お山の大将」になりがちなところを、ロータリーが気づかせ、成長させてくれたと感謝しています。

馬術についても少しお話をさせてください。私は引退後も関西大学体育会馬術部のコーチを務めており、馬術は私の人生の一部です。昨年、我がチームが全日本で優勝した際の写真があります。今年も優勝し、パリオリンピックで注目を集めたジャパンチームのメンバーとも関わりがあります。彼らの多くは私の教え子であり、現役時代には共に戦い、切磋琢磨した仲間たちです。ベルサイユ宮殿で馬術が開催された際は行きたかったのですが、公務である公式訪問を優先し、国内から応援しました。また、学生を指導する立場として、最新の競技環境を理解するため、引退後も試合に出場しました。馬術は馬と人が一体となる競技で、馬の繊細さに助けられながらコーチとしての面目を保つことができました。例えば、グラスアリーナでは蹄鉄にクランポンを装着する必要があるなど、場面ごとに異なる配慮が求められます。

馬は非常に感受性が豊かで、物言わぬ相棒です。昨年の個人優勝時、ウィニングランを終えた馬が甘えて首を絡めてきた様子が撮影された写真は、私の宝物です。また、全日本で4回優勝した馬との引退試合では、19歳という高齢にもかかわらず見事に花道を飾ってくれました。その時、厩舎で「よく頑張ってくれたね」と労うと、笑顔のような表情を見せてくれました。

このように馬術を通じて、馬との信頼関係を築き、一体となって目標を達成する中で、多くのことを学びました。今日の私を形づくる重要な要素であり、それが少しでもロータリー活動や今年度の役割に生かされればと願っています。

さて、これから本題に入らせていただきます。まず初めに、今年度の国際ロータリー(RI)会長をご紹介します。今年度のRI会長は、アメリカ・ペンシルバニア州のマクマーリー・ロータリークラブに所属するステファニー・アーチャー会長です。RIでは二人目の女性会長であり、皆さまご存じの通り、2年前にはカナダからジェニファー・ジョーンズさんが初の女性会長として活躍されました。今年度のテーマカラーはオレンジとスカイブルーです。オレンジは季節の移り変わりを象徴し、1つの段階の終わりと新たな段階の始まりを意味する色です。一方、スカイブルーは知識や知性、信頼性、忠誠心を連想させ、オープンなコミュニケーションへの意欲を示す色です。これらの色は、自分自身と世界を変えながら共に前進したいという熱い思いを表現しています。

今年度のテーマは「ロータリーのマジック」(The Magic of Rotary)です。このテーマは、アーチャー会長のご経験に基づいています。彼女がドミニカ共和国で浄水器の設置活動に携わった際、汚れた水が浄水器を通してきれいな水になり、それを目にした少年が「もう一度その魔法を見せて」とお願いしたそうです。その経験を通じて、少年たちが清潔な水で人生が変わることを理解し、アーチャー会長自身の人生も変わったとのことでした。

アーチャー会長は次のようにも述べています。「誤解しないでください。私たちは魔法の杖を振って呪文を唱えるだけで会員を増やしたり、ポリオを根絶したり、世界に平和をもたらしたりするわけではありません。それは皆さん次第です。プロジェクトを終えるたび、寄付するたび、新会員を迎えるたび、皆さんはマジックを生み出しているのです。」私たちは、ロータリーのマジックで持続可能な良い変化を生み出す行動を続けることが大切だと感じます。

次に、RIの協調事項についてお話しいたします。新会員の方に向けて補足しますと、RIとは「国際ロータリー」(Rotary International)の略です。ガバナーである私も、地区で唯一のRI役員として派遣されています。アーチャー会長は「ポリオ根絶はロータリーの最優先事項であり、最大限のコミットメントが必要」と強調されました。あと少しでポリオ根絶に近づいていますが、この「少し」が非常に難しい状況です。例えば、加地区では25年ぶりにポリオ感染が確認されました。一時停戦が行われてワクチン接種が進められたものの、予防の重要性を改めて実感させられます。ポリオ根絶活動を支援する最善の方法は「認識向上」と「資金調達」だと会長も述べています。ロータリーの寄付に対して、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍額を上乗せする仕組みがあることをご存じの方も多いでしょう。ただし、5000万ドルの年次目標額を達成することが条件です。地区では「ポリオプラスソサエティ(PPS)」が設立され、毎年100ドル以上のポリオ寄付を行う会員が増えています。ポリオ根絶は「世界の子どもたちと交わした約束」です。ぜひご協力をお願い申し上げます。

また、10月20日(日)には赤坂アークヒルズのカラヤン広場で「世界ポリオデーイベント」を開催いたしました。このイベントでは、ポリオウォーク、ポリオに罹患した方々のトークショー、尾身茂先生のトーク動画などを通じてポリオへの理解を深めていただきました。参加者からは「ポリオ根絶の重要性を再認識した」との感想を多数いただき、非常に意義深いイベントとなりました。皆さまの思いとご支援がポリオ根絶につながることを願い、引き続きよろしくお願いたします。

続きまして、RI(国際ロータリー)の強調事項について、もう1つお話しします。アーチャー会長は「平和構築」を



強調されており、これを最優先事項の1つと位置づけています。世界で紛争や分断が多発している今だからこそ、このテーマがより重要とされています。ロータリーとして、私たちにできることがあり、それを行動に移していかなければならない時期だと感じます。

アーチャー会長が平和構築の手段として特に好んでいるのが、「4つのテスト」です。新会員の皆さまにとって初耳かもしれませんが、このテストは次の4つの問いから成り立っています。

- ・真実かどうか
- ・みんなに公平かどうか
- ・好意と友情を深めるかどうか
- ・みんなのためになるかどうか

アーチャー会長は、「ロータリー会員全員が4つのテストを単に唱えるだけでなく、これを真に実践することで世界はより良くなるでしょう。そして、平和を広げるには、まず自分自身の中に平和を見出さなければなりません」と述べています。私もこのお話を聞いて「なるほど」と納得させられました。

次に、RIの協調事項として、新クラブの結成と会員目標の達成についてお話しします。

私は今年1月6日、アメリカ・オランダで開催された国際協議会に出席してまいりました。この協議会では、世界中のガバナーエレクトが一堂に会し、研修や議論を行います。オンラインが普及した今だからこそ、こうしたリアルな場の重要性を改めて実感しました。協議会では「地区内で4つ以上の新クラブを結成し、会員数を100人以上増加させる」という目標が示されました。

2750地区は現在98クラブを擁しており、この目標を達成するには新しい仲間を迎える変化が必要だと考えています。新クラブの結成においては、衛星クラブやローターアクトクラブなど、新しい形態のクラブにも期待しています。同時に、既存クラブの活性化にも力を入れたいと考えています。クラブの皆さまには、それぞれのクラブをより活性化させるための取り組みに積極的に挑戦していただければと思います。

続いて、地区運営の基本方針についてお話しします。今年度の基本方針は「変化への柔軟な対応」です。言うまでもなく、社会は急速に変化しています。それに伴い、ロータリーにも変化が求められています。そこで、今年度の地区スローガンを「飛躍と原点の探求」としました。変化は存続や発展に不可欠である一方、ロータリーの理念という原点は揺るぎないものでなければなりません。各クラブが10年後、20年後も生き生きと活動を続けるためには、変化を受け入れるだけでなく、その原点を再確認することが重要です。

ロータリーの創設者ポール・ハリスは、1935年に次のように述べています。「世界は絶えず変化しています。そして、私たちは世界とともに変化する心構えを持たなければなりません。ロータリーの物語は何度も書き換えられなければならないでしょう。」この言葉は、変化に挑む重要性を示しています。どうすればクラブがより活性化するか、そのためにどのような変化が必要かを考え、行動に移していきましょう。

次に、クラブの会員基盤についてお話しさせていただきます。現在、どのクラブにとっても会員増強は大きな課題となっていますが、増強の目的は単に数を増やすことではありません。クラブの基盤を強化し、より良いクラブづくりを目指すことが本来の目的です。

今年度、東京昭島ロータリークラブは47名でスタートし、来年7月1日には52名、順増5名を目標としています。野村会長は「絆、世代を超えて」を会長方針として掲

げ、絆を大切にしながら一丸となって事業を進め、多くの「マジック」を生み出していかれることでしょう。また、東京昭島中央ロータリークラブは、今年7月1日時点で54名でスタートされました。2025年7月1日には56名、順増2名を目指しています。田畑会長は「感謝される喜び」をテーマに掲げ、クラブ設立35周年を節目に、多くの「ありがとう」を生み出し、クラブの未来を築く活動を展開されることと思います。

今後、つながりを強化することがますます重要になると考えています。皆様ご存じの通り、この地区には「パシフィックベースングループ」(PBG)というグループがあります。ゴム、サイパン、パラオ、ミクロネシアのクラブが属するグループで、日本国内34地区の中で海外クラブが含まれるのは2750地区だけです。このPBGとのつながり、ローターアクトやインターアクト、さらにロータリーファミリーとのつながりを深めることで、相互理解が進み、協力による大きな力が生まれることが期待されます。また、クラブ同士のつながりも非常に有意義です。このつながりは、大きな奉仕活動につながる可能性を秘めています。その対象は世界中に広がっており、これこそがロータリーの魅力であり、強みです。この強みを大いに活用し、有意義な奉仕活動を展開していただければと思います。

次に、行動計画についてお話しします。最近「行動計画」という言葉を耳にする機会が増えたかもしれません。具体的な計画というより、むしろ行動指針として捉えていただく方が分かりやすいかもしれませんね。そのビジョンとして次のように掲げられています。

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指します。」

行動計画を形づくる4つの優先事項も定められています。

- ・より大きなインパクトをもたらす(例:奉仕活動)
- ・参加者の基盤を広げる
- ・参加者の積極的な関わりを促す
- ・適応力を高める

アーチャー会長は「行動計画は、クラブでの体験をより魅力的にし、活動しやすくするためにある」とおっしゃっています。さらに、この行動計画は、クラブの強みや弱点、改善点を特定し、クラブを成長させる手段として役立つものです。行動計画を推進することで、ロータリーの「マジック」が始まり、ロータリーの未来を開くことにつながると信じています。RIの方針を受けて、クラブや地区の行動計画・戦略計画の推進役として、新たに「地区行動計画推進リーダー」を設けることになりました。この役職には、東京広尾ロータリークラブの服部陽子パストガバナーが就任し、3年間務めていただきます。さらに、各クラブにも「クラブ行動計画推進リーダー」を設けることが決まりました。既に多くのクラブで推進リーダーが選任され、動き出しているのではないかと思います。それだけ、この行動計画がロータリーの未来にとって重要であることを意味しています。

続いて、スリーアゴールズについてお話しします。これは、2024-2025年度から開始される新しい取り組みで、RI理事会での決定を経て導入されました。以前は「スリーアローリングターゲットツアンドブランス」と呼ばれていたもので、単年度ごとの目標設定に継続性を加え、ビジョンを着実に実現していく仕組みです。具体的には、クラブが2024年度から2026年度の3年間を見据えた戦略計画を策定します。毎年計画を見直し、2026-2027年度にその成果を検証するという流れです。3年先を見越した計画作りには戸惑いを感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、

私は各クラブの会長に対し、次のようにお願いしています。「クラブのビジョンを考えるため、クラブ協議会を開いたり、アンケートを実施したりして、皆さまのクラブに対する思いを吸い上げてください。」

ベテラン会員はクラブへの深い愛着やロータリーで大切にしていることをお持ちでしょうし、新しい会員はロータリーへの期待や挑戦したいことがあると思います。これらの意見を集めることで、それぞれのクラブが個性を生かし、より強く魅力的なクラブとなるための道筋が見えてくるはずです。このスリーアゴールズが始まる初年度に、ぜひクラブ全体で未来を見据えた計画を立てていただければと思います。

次に、DEI（多様性、公平さ、インクルージョン）についてお話しします。これは近年、ロータリーで特に強調されているテーマです。アーチャー会長は次のように述べています。

「クラブに心から帰属意識を持っていない会員がいるかもしれません。だからこそ、多様性、公平さ、インクルージョン、そして帰属意識を広げることが重要です。」

また、「行動志向の次世代の人々をオープンな心で迎え入れてほしい。それが地元クラブの典型的な会員像と異なる人であっても、共通の目的のために結束しやすくなる」とも語っています。DEIを受け入れることで、ロータリーはより効果的で時代に即した存在へと進化していきけるのです。私たちは、多様な人々と協力してインパクトのある奉仕活動を行い、社会や世界をより良くしていくことを目指しています。そのためには、会員一人一人が変化の必要性を認識し、実際に行動することが求められます。異なる価値観や背景を持つ人々を温かく迎え入れることこそ、ロータリーの寛容の精神であり、今こそその精神を発揮する時です。DEIを実現したクラブは、誰もが温かく迎え入れられる居心地の良い場となり、会員の帰属意識も高まります。その中で協力し合い、意義ある奉仕活動を通じて、世界を平和で住みやすい場所に変えていく持続可能な良い変化を生み出すことができるのだと思います。DEI（多様性、公平さ、インクルージョン）について  
DEIは、意義深い奉仕活動を行う上で、また会員の維持や増強においても大きな力になると考えています。

#### ※ITの活用

ITの対応は、時代の変化や効率化、さらには新たなパデミックに備えるためにも必要不可欠です。尾身茂先生は「新たなパデミックは間違いなくやってくる」と警鐘を鳴らしており、コロナ禍でオンライン活動に慣れたクラブも多く見られるようになりました。若い会員がベテランの方々をサポートしてオンライン会議のセットアップを手伝うことで、世代間の交流も進んでいます。Zoomを活用することで、遠く離れた家族と顔を見ながら会話ができる喜びの声も聞かれました。また、世界的に著名な方をゲストスピーカーとして招き、オンラインで100%出席の例会を実現したクラブもありました。こうしたプラス面を活かし、いざという時のためにもオンラインツールに慣れておいただければと思います。若い方々にサポートをお願いしながら、ぜひ積極的に取り組んでください。

また、「マイロータリー」の登録も重要です。地区表彰の対象として、登録率90%以上のクラブを目標にしています。野村会長、田畑会長がクラブを代表して表彰の段に立たれる場面をぜひ想像して、達成に向けて取り組んでいただければと思います。

#### ※地区大会の開催

今年度の地区大会は、2025年2月28日（金）と3月1日（土）の2日間で行います。これまでは平日に開催していましたが、多忙な若い会員やベテラン会員の参加を促すため、今回から土曜開催としました。この決定は次年度・次々年度のガバナーとも相談の上、進めております。ホテルも土曜日料金を例年通りにしていただけることになり、実現に至りました。PBGのメンバーをはじめ、韓国や台湾からのゲスト、ローターアクトの参加も予定されています。多くの方との交流が可能なこの機会を大切に、大勢でご参加いただければと思います。クラブ紹介の際、会員が少ないと寂しい印象になりますので、ぜひ一人でも多くのご参加をお待ちしています。

#### ※国際大会について

今回の国際大会はカナダのカルガリーで開催されます。遠い場所ではありますが、これを前向きに捉え、ぜひ一緒に参加しましょう。右側の写真は、私が30代のときにカナディアンロッキーを訪れた際のもので、レイクルイーズの前で撮影しました。美しい自然に触れられる機会でもあります。観光やゴルフなど楽しめるアクティビティも充実していますので、多くの方にご参加いただければと思います。

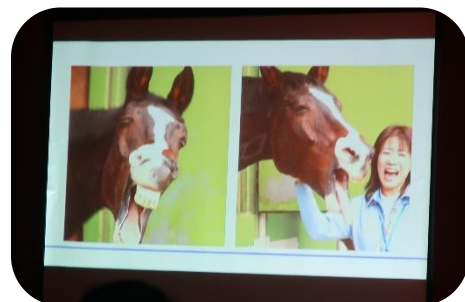
#### ※変化とロータリーの原点

ロータリーは「親睦」と「奉仕」という2つの柱が両輪となっており、この基本理念は不変です。ただし、変化には不安や抵抗が伴うものですが、変化こそが前進と発展をもたらします。私が会長を務めた年は東日本大震災の年で、混乱や困難が続く中で多くの会員が不安定な状況にありました。そのような時期に、市川パストガバナーからいただいた「疾風に勁草を知る」という言葉に励まされました。疾風とは激しい風、勁草とは根を張った強い草を指し、「逆境こそ真価が問われる」という意味で深く心に刻まれています。

ポール・ハリスも1940年の国際大会で次のように語っています。

「嵐が荒れ狂っていてもロータリーはしっかりと立っています。それは恐れや競争、猜疑心ではなく、友情、人の役に立つという永遠の和を土台としているからです。」

このメッセージは、変化が求められる時代にも通じる力強い言葉です。友情、寛容、人の役に立つというロータリーの基盤を大切にしながら、皆さまとともに前進し、多くの「ロータリーのマジック」を生み出していきましょう。そして、「世界で良いことをしよう」という標語のもと、クラブを活性化し、ロータリーを発展させ、世界をより良い場所に変えていきましょう。



## 謝辞（東京昭島 RC 野村 芳樹会長）

本日は大変お忙しい中、大変ありがとうございました。まだまだ至らない点多々あるとは思いますが、今年度残り 7 カ月余り、テーマに沿ったクラブ運営をしていきたいと思っております。それには、ロータリー活動が楽しく有意義なものでなくてはなりません。私は常々、ロータリーは例会を通じた人間形成の場であると色々な会合の場で行ってまいりました。例会に喜んで参加することで、人間としてもロータリアンとしても年齢は関係なく成長ができると私は固く信じております。本日、ガバナーのご指導を試に、両クラブがさらに飛躍、発展できるように、

より一層頑張っていきたいと思っております。最後になりますが、東京昭島ロータリークラブで恒例となっております健康川柳を披露して謝辞をしたいと思います。気にしない笑顔が 1 番健康法。気にしない笑顔が 1 番健康法。笑う門には福来たる。皆さん、ニコニコ笑って例会をエンジョイしましょう。以上です。ありがとうございました。

## ●閉会点鐘

昭島 RC 野村 芳樹会長・田畑 勝久会長

